

## 乳児期における過保護の実態調査（第1報）

研究第3部 松島富之助・成沢 純子

### I 緒 言

最近、乳児死亡率の著しい低下と平行して、罹患する疾病も軽症のものが多くなり、乳児の栄養状態の向上と早期発見、早期治療が以前よりもよく行われつつあるために、小児保健の分野は小児の質的向上のための保健指導が重視されるに至った。

小児の保健指導面で重要なポイントは、小児の要求を満たしつつ、しかも小児の個人差を尊重して、積極的育児を行うことの徹底にある。

しかし保健指導の効果があらわれるためには、指導が実行されるか否かにかかっているといえよう。

我々は小児の積極的育児を障害する原因調査として、過保護をとりあげたが、冬の期間における乳児の日常の世話の面で、日光浴、外気浴、入浴、食事などの重要な日課の実施状況と、それを妨げる因子を分析するために本調査を行った。

### II 調査方法

対象は昭和45年1月から3月末までの期間に6か月から9か月の月齢にある乳児について、愛育病院保健指導部に来部した母親にアンケート用紙を渡し調査を行っ

た。質問用紙は乳児が生れてから6か月までの環境、母親の育児態度、育て方について記入を求めた。

### III 研究結果

○対象児 158例

- (内訳)①
- 第1子の者 90例 (57.0%)
  - 第2～3子の者 68例 (43.0%)
- ②
- 両親と同居している者 59例 (37.4%)
  - いわゆる核家族の者 99例 (62.6%)

A 生れてから6か月までの環境（第1表）

1. 主な保育者は、(表1-①)そのほとんどが母親であり90%以上を占めており、祖母という例が5例(3.1%)、母と祖母が保育者という例が7例(4.4%)みられる。

第1表 生れてから6か月までの環境

1-① 主な保育者は

1	母	143 (90.6)
2	祖母	5 (3.1)
3	伯・叔母	0
4	手伝い	0
5	母と祖母	7 (4.4)
6	母、祖母、伯叔母	1 (0.7)
7	不明	2
計		158

1-② 主な保育者は ①

	第1子	第2～3子	計
母	80(90.1)	62(91.3)	143(90.6)
祖母	2 (2.2)	3 (4.4)	5 (3.1)
伯・叔母	0	0	0
手伝い	0	0	0
母と祖母	5 (5.5)	2 (2.9)	7 (4.4)
母、祖母、叔母	1 (1.1)	0	1 (0.7)
不明	1	1	2
計	90	68	158

②

	両親と同居	核家族	計
母	46(78.0)	97(98.0)	143(90.6)
祖母	3 (5.9)	2 (2.0)	5 (3.1)
伯・叔母	0	0	0
手伝い	0	0	0
母と祖母	7(11.8)	0	7 (4.4)
母、祖母、叔母	1 (0.9)	0	1 (0.7)
不明	2 (3.4)	0	2
計	59	99	158

1-㉔ 日 当 り

1	良	111 (70.4)
2	不 良	19 (12.0)
3	そ の 中 間	27 (17.1)
4	不 明	1 (0.5)
計		158

1-㉕ 庭 の 有 無

1	有	85 (53.7)
2	無	67 (42.4)
3	不 明	6 (3.9)
計		158

庭が無いが近くに公園がある	54 (30.6)
庭もなく公園もない	13 (19.4)
計	67

1-㉖ 住 宅 環 境

1	静 か	119 (75.5)
2	騒 しい	37 (23.4)
3	不 明	2 (1.1)
計		158

1-㉗ 家 屋

1	一 戸 建 自 宅	77 (48.7)
2	間 借 り	23 (14.5)
3	ア パ ー ト	56 (35.4)
4	社 宅	2 (1.4)
5	不 明	0
計		158

1-㉘ 公 園 や 児 童 遊 園

1	近 く に あ る	123 (77.9)
2	な い	30 (19.0)
3	そ の 他	2 (1.3)
4	不 明	3 (1.9)
計		158

2. 日当りについては、(表1-㉔) 良いと答えているものが111例(70.4%) 中間というものが27例(17.1%) ほぼ90%近くのもの日当りは良いと考えられる。

3. 庭の有無については、有りが85例53.7%と半分の者に庭のある家庭がみられ、庭のない場合も、近くに公園等がある(80.6%) (表1-㉕) という、それに変わる

環境がある家庭が多い。

4. 住宅環境としてその大半(75.5%)が静かと答えている。

5. 家屋は一戸建自宅が77例(48.7%)と約半分が持家である。間借り23例(14.5%) アパート56例(35.4%) 社宅2例(1.4%) (この社宅はアパート式なのでアパートの中にふくませるとアパートは36.8%になる)

6. 公園や児童遊園について、近くにあると答えたもの123例(77.9%) ないと答えたもの30例(19.0%) (表1-㉘)。

以上から見ると保健指導部に来部している対象児は比較的恵れた環境にある階層の子が多いと言える。

B 子供の体について (第2表)

1. 子供の体について困ったことがありますかという質問に対して、全く健康という例が38例(24.0%)で、第1子の場合23例(25.6%)でほとんど差がみられなかった。又病気のある場合、その症状について「とても心配で眠れなかった」もの14例(8.9%)、「たいして気にならない」もの69例(43.7%)でそのほとんどがあまり気にしていない様である。(2-㉙)

病気のある場合その内容は(第3表)の如くであり、湿疹が一番多く29.1%、いびつ17.1%、かぜひき13.3%、下痢11.4%、便秘10.1%、等が訴えの多いものとしてみられた。

第2表 乳児の体について困ったことがありますか。

2-㉑ 健・否

1	全 く 健 康	38 (24.0)
2	あ る 場 合	115 (72.8)
3	不 明	5 (3.2)
計		158

2-㉒ 健・否 ㉑第1子、他別

	第1子	第2~3子	計
全 く 健 康	23(25.6)	15(22.1)	38(24.0)
病 気 の あ る 場 合	65(72.3)	50(73.9)	115(72.8)
不 明	2 (2.1)	3 (4.0)	5 (3.2)
計	90	68	158

2-㉓ 「それは現在も続いていますか」

1	は い	76 (48.1)
2	い い え	30 (14.5)
3	不 明	59 (37.4)
計		158

松島他：乳児期における過保護の実態調査（第1報）

2-㊦ その症状について

1	とても心配で眠れない	14 (8.9)
2	たいして気にならない	69 (43.7)
3	その他	15 (9.5)
4	不明	60 (37.9)
計		158

2-㊦ 同上 ①

	第1子	第2~3子	計
とても心配で眠れない	9(10.0)	5 (7.4)	14 (8.9)
たいして気にならない	41(45.6)	28(41.2)	69(43.7)
その他	11(12.2)	4 (5.9)	15 (9.5)
不明	29(32.2)	31(45.5)	60(37.9)
計	90	68	158

第3表 病気の内訳

乳児の体について困ったことがありますか(158例)

全く健康	38人 (24.0%)
1. しっしん	46例 (29.1)
2. いびつ	27 (17.1)
3. かぜびき	21 (13.3)
4. 下痢	18 (11.4)
5. 便秘	16 (10.1)
6. 夜泣き	13 (8.2)
7. せき	12 (7.6)
8. あせも	11 (6.9)
9. 赤あざ、太りすぎ	各 10 (6.3)
11. 体重増えない、吐乳	各 8 (5.6)
13. くさめ、食欲不振	各 7 (4.4)
15. 斜頸	6 (3.8)
16. 髪が抜ける、頭蓋ろう	各 4 (2.5)
18. ぜんそく	2 (1.3)
19. 不明	5 (3.1)

C 育て方について

1. 家庭内でのお互いの話し合い (第4表)

「主人との間」は「とてもうまくいく」68例(43%)「普通」84例(53.9%)「うまくいかない」1例(0.2%)とほとんどがうまくいっているようであり、父親も昔と違って自ら子供の育児に協力的になってきており、好ましい傾向といえよう。又「その他の人との間」(そのほとんどが祖父母についてである)においても「とてもうまくいく」(18.3%)、「普通」(32.0%)と特に問題のあ

第4表 育て方について家庭内でのお互いの話し合い

主人との間		その他の人との間	
1	とてもうまくいく	68(43.0)	29(18.3)
2	普通	84(53.0)	48(32.0)
3	うまくいかない	1 (0.2)	3 (0.2)
4	全くうまくいかない	0	0
5	不明	5 (3.8)	78(49.5)
計		158	158

第5表 育て方について神経質か一母親の性格

あなたは自分を		御主人は	同居人は	人はあなたのことを	
1	特に神経質と思う	7 (4.4)	9 (5.7)	4 (2.7)	5 (3.3)
2	神経質	22 (13.9)	26 (16.4)	9 (5.7)	34 (21.6)
3	普通	109 (69.0)	107 (47.9)	46 (29.1)	65 (41.0)
4	のんき	16 (10.1)	15 (9.5)	7 (4.4)	23 (14.5)
5	不明	4 (2.5)	1 (0.5)	92 (58.1)	31 (19.6)
計		158	158	158	158

6-④ 日光浴、外気浴、入浴を行なっているか

	日光浴	外気浴	入浴
毎日行っている	82(52.1)	112(70.9)	104(65.8)
週 2~3 回	39(24.7)	31(19.6)	49(31.0)
週 1 回	14 (8.9)	6 (3.8)	0
2~3 週に 1 回	7 (4.7)	2 (1.3)	0
行なわない	6 (3.8)	0	0
不明	10 (6.2)	7 (4.4)	5 (3.2)
計	158	158	158

る家庭はないが、祖父母のいる家庭において、母親に育児がまかされている場合においても、他方に祖父母の甘やかし等があれば、しつけの一貫性もくずされることになり、母親として仕方がないと黙認してしまっているケースも多いのではないと思われる。

2. 育てる側の性格について (第5表)

母親自身については「特に神経質と思う」7例(4.4%)「神経質」22例(13.9%)と神経質な母親が18%近くおり、他人から見た母親の性格では、「特に神経質」3.3%、「神経質」21.6%と四分の一近くの母親に神経質がみられるようである。

6-① ①第1子・他別-上欄 ②同居家族有無別-下欄

	日光浴 (晴れた日は必ず)			外 気 浴			入 浴		
	第1子	第2-3子	計	第1子	第2-3子	計	第1子	第2-3子	計
行っている (毎日)	56 62.2%	26 38.1%	82 52.1%	64 71.1%	48 70.6%	112 70.9%	59 65.6%	45 66.2%	104 65.8%
週2-3回	17 18.9%	22 32.4%	39 24.7%	17 18.9%	14 20.6%	31 19.6%	28 31.1%	21 30.9%	49 31.0%
週1回	9 10.0%	5 7.4%	14 8.9%	3 3.3%	3 4.4%	6 3.8%	0	0	0
2-3週に1回	2 2.2%	5 7.4%	7 4.3%	1 1.1%	1 1.5%	2 1.3%	0	0	0
行なわない	2 2.2%	4 5.9%	6 3.8%	0	0	0	0	0	0
不 明	4 4.4%	6 8.8%	10 6.2%	5 5.6%	2 2.9%	7 4.4%	3 3.3%	2 2.9%	5 3.2%
計	90	68	158	90	68	158	90	68	158

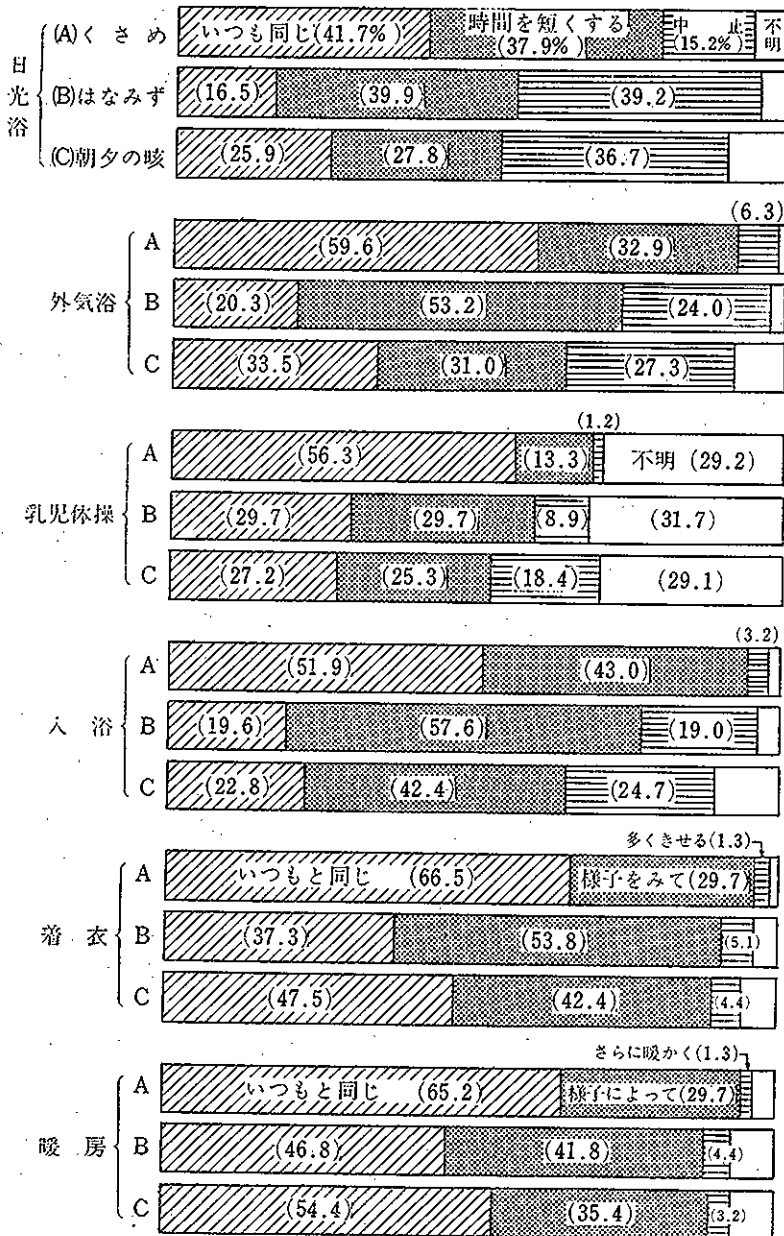
	日 光 浴			外 気 浴			入 浴		
	両親と同居	核家族	計	両親と同居	核家族	計	両親と同居	核家族	計
行っている (毎日)	32 54.2%	50 50.5%	82 52.1%	41 69.5%	71 71.7%	112 70.9%	47 79.7%	57 57.6%	104 65.8%
週2-3回	11 18.6%	28 28.2%	39 24.7%	13 22.0%	18 18.2%	31 19.6%	10 16.9%	39 39.4%	49 31.0%
週1回	6 10.2%	8 8.1%	14 8.9%	1 1.7%	5 5.1%	6 3.8%	0	0	0
2-3週に1回	2 3.4%	5 5.1%	7 4.3%	1 1.7%	1 1.0%	2 1.3%	0	0	0
行なわない	3 5.1%	3 3.0%	6 3.8%	0	0	0	0	0	0
不 明	5 8.5%	5 5.1%	10 6.2%	3 5.1%	4 4.0%	7 4.4%	2 3.4%	3 3.0%	5 3.2%
計	59	99	158	59	99	158	59	99	158

6-② 母親の性格別

	日 光 浴			外 気 浴			入 浴		
	A 特 に神経 質	B 神 経質	D 他人 が神経 質と みる	A	B	C	A	B	C
1. 行っている (毎日)	3(42.8)%	12(50.0)%	5(33.4)%	5(71.6)%	16(67.0)%	10(66.4)%	4(57.6)%	16(67.0)%	15(10.0)%
2. 週に2-3回	2(28.6)	8(33.5)	5(33.4)	1(14.2)	6(25.0)	3(20.0)	3(42.4)	7(29.2)	0
3. 週に1回	2(28.6)	0	1(6.7)	1(14.2)	0	1(6.7)	0	0	0
4. 2-3週に1回	0	1(4.6)	2(13.4)	0	0	1(6.7)	0	0	0
5. 行なわない	0	2(8.3)	1(6.7)	0	0	0	0	0	0
6. 不 明	0	1	1	0	2	0	0	1	0
計	7	24	15	7	24	15	7	24	15

松島他：乳児期における過保護の実態調査（第1報）

7-① 元気のよい乳児が次の状態の時どうしますか



3. 「日光浴、外気浴、入浴を毎日行っていますか、という質問に対して(表6-①) そのほとんどが毎日行っているが、日光浴においては行わないもの6例(3.8%)、2~3週に1回というもの7例(4.7%)と子供を裸にすることをなかなか励行できないでいる母親もみられるようである。第1子においては第2~3子においてよりも励行率は高いようである。核家族、祖父母のいる家

庭との間はほとんどその差がみられない。(表6-①)

日光浴において神経質な母親について見ると(表6-①)の如く、特に神経質な母親はそのほとんどが日光浴を励行しており、神経質な母親の方が確実に指導されたことが実行され得ると考えられよう。

4. 「元気のよい乳児が、くさめ、はなみず、咳の時どうしますか、という質問に対して(第7表)、くさめ

7-①

		日光浴			外気浴			入浴		
		A 特 に神経 質	B 神経 質	C 他人 が神経 質とい う	A	B	C	A	B	C
く さ め	1. いつもと同じ	4(57.2)	10(41.7)	7(46.6)	6(85.8)	14(58.5)	7(46.6)	4(57.6)	14(58.3)	9(59.9)
	2. 時間を短く	2(28.6)	11(46.0)	4(26.7)	1(14.2)	9(37.5)	5(33.4)	3(42.4)	10(41.7)	5(33.4)
	3. 中止	1(14.2)	3(12.3)	4(26.7)	0	0	2(13.4)	0	0	1(6.7)
	4. 不明	0	0	0		1	1	0		0
	計	7	24	15	7	24	15	7	24	15
は な み ず	1. いつもと同じ	1(14.2)	3(12.3)	2(13.4)	2(28.6)	4(16.8)	3(20.0)	5(71.6)	10(41.7)	1(6.7)
	2. 時間を短く	5(71.6)	8(33.4)	6(40.0)	3(43.0)	16(67.0)	7(46.6)	1(14.2)	12(50.0)	12(80.0)
	3. 中止	1(14.2)	13(54.3)	7(46.6)	1(14.2)	3(12.3)	5(33.4)	1(14.2)	2(8.3)	2(13.3)
	4. 不明	0	0	0	1	1	0	0	0	0
	計	7	24	15	7	24	15	7	24	15
咳	1. いつもと同じ	1(14.2)	8(33.4)	3(20.0)	1(14.2)	8(33.4)	3(20.0)	4(57.2)	11(46.0)	2(13.4)
	2. 時間を短く	3(42.9)	6(25.0)	4(26.7)	3(43.0)	8(33.4)	6(40.0)	2(28.6)	7(29.2)	8(53.2)
	3. 中止	3(42.9)	9(37.5)	8(53.3)	2(28.6)	7(29.2)	6(40.0)	1(14.2)	4(16.8)	3(20.0)
	4. 不明	0	1	0	1	1	0	0	2	2
	計	7	24	15	7	24	15	7	24	15

第8表 冬の暖房のとり方

暖房のとり方			暖房の仕方		
1	寒暖計がある	137 (86.6)	1	部屋を暖める	97 (61.5)
2	寒暖計がない	17 (10.7)	2	ベッドを暖める	0
3	不明	4 (2.7)	3	両方を行なう	56 (35.4)
			4	不明	5 (3.1)
	計	158		計	158

の場合に、そのほとんどにおいて、いつもと同じ様に行っているが、はなみずの場合においては、「時間を短くする」が多く、日光浴においては「中止」とほぼ同率を占めており、母親にとって日光浴は実行しにくい項目のようである。

朝夕の咳の場合は、日光浴、外気浴、入浴に「中止」の例がみられるが、ほとんどがいつもと同じ様に行うか、時間を短くして実行しているようである。(表7-①)

又特に神経質な母親では(表7-②)の如く、はなみずの場合でも中止例は1例と、中止する例は少ないようである。

5. 冬の暖房のとり方について(第8表)  
寒さの目安となるものとしての寒暖計の有無について

調べた所、あると答えた者137例(86.6%)と圧倒的に多くの家庭に常備されているが、それでも17例(10.7%)の者はないと答えている。

暖房を行う基準としては、寒暖計と他、母親の感じであるいは、まわりの者の意見で行っているのが多い様である。

暖房の仕方として部屋を暖める97例(61.5%)ベッドのみ暖房する0例、両方を行う56例(35.4%)で、その方法は部屋の場合はガス、石油、電気ストーブが多く、少数例に、セントラルヒーティングがあり、ベッドの暖房方法は湯タンポ、電気アンカがほとんどであった。電気毛布・シーツはみられなかった。

6. 機嫌のよい乳児が、下痢、嘔吐、食欲不振の時食事はどうするかという質問において(第9表)「機嫌がよければいつもの通りに与える」が過半数で、食欲不振においては91%の者が「ほしただけにしておく」となっている。これは第1子、祖父母のいる家庭との差もなく(表9-①)、アンケートの対象が、保健指導を受けている者を対象とした調査であったために、下痢、嘔吐だからといって極端に食事を中止したりという解答がみられなかったものと思われる。

7. 乳児が、はなみず、くしゃみ、傷、ベッドから落ちたという場合にどうしますかという質問に対しては

松 島 他：乳児期における過保護の実態調査（第1報）

第9表 機嫌のよい乳児が次の状態の時、食事はどうしますか

9-①

		下痢	嘔吐			食欲不振
1	お乳や食事すべて中止する	1 (6.2)	9 (5.7)	1	無理にのませる	1 (0.1)
2	普段よりへらす	48(30.0)	58(36.7)	2	時間を短くして少しでも多く与える	8 (5.7)
3	食欲も機嫌もよければいつも通り与える	104(66.0)	86(54.5)	3	ほしただけにしておく	145(91.7)
4	不明	5 (3.8)	5 (3.1)	4	不明	4 (2.5)
計		158	158	計		158

9-② ① 第1子、他別——上欄 ② 同居家族別——下欄

	下痢			嘔吐				食欲不振		
	第1子	第2~3子	計	第1子	第2~3子	計		第1子	第2~3子	計
お乳や食事すべて中止する	1 (1.2)	0	1 (0.2)	4 (4.3)	5 (7.4)	9 (5.7)	無理にのませる	0	1 (1.3)	1 (0.1)
普段より減らす	25 (27.5)	23 (34.9)	48 (30.0)	33 (36.7)	25 (36.8)	58 (36.7)	時間を短くして少しでも与える	6 (6.7)	2 (2.9)	8 (5.7)
いつも通り与える	63 (70.0)	41 (60.4)	104 (66.0)	51 (56.8)	35 (51.5)	86 (54.5)	ほしただけにしている	83 (92.3)	62 (91.4)	145 (91.7)
不明	1 (1.2)	4 (4.7)	5 (3.8)	2 (2.2)	3 (4.3)	5 (3.1)	不明	1 (1.0)	3 (4.4)	4 (2.5)
計	90	68	158	90	68	158	計	90	68	158

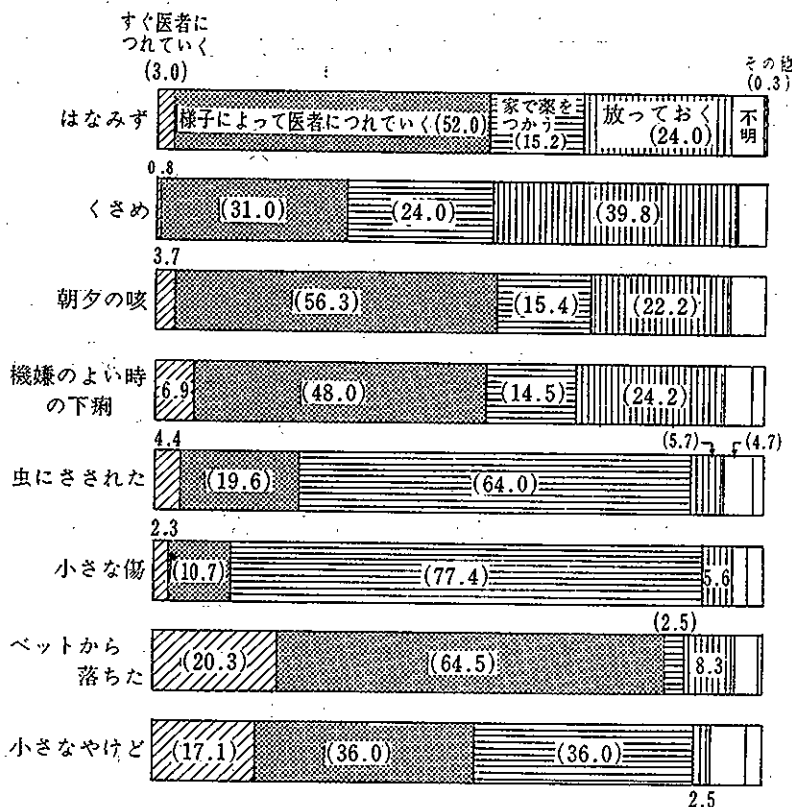
	下痢			嘔吐				食欲不振		
	両親同居	核家族	計	両親同居	核家族	計		両親同居	核家族	計
お乳や食事すべて中止する	1 (2.2)	0	1 (0.2)	3 (5.1)	6 (6.7)	9 (5.7)	無理にのませる	0	1 (1.3)	1 (0.1)
普段より減らす	21 (35.6)	27 (27.3)	48 (30.0)	16 (27.1)	42 (42.4)	58 (36.7)	時間を短くして少しでも与える	6 (6.7)	2 (2.9)	8 (5.7)
いつも通り与える	36 (59.2)	68 (68.2)	104 (66.0)	38 (64.5)	48 (48.6)	86 (54.5)	ほしただけにしておく	83 (92.3)	62 (91.4)	145 (91.7)
不明	1 (2.2)	4 (4.5)	5 (3.8)	2 (3.3)	3 (3.3)	5 (3.1)	不明	1 (1.0)	3 (4.4)	4 (2.5)
計	59	99	158	59	99	158	計	90	68	158

9-③ 母の性格別

	下痢			嘔吐			食欲不振		
	A 特 に神経 質	B 神経 質	C 他人 が神経 質とい う	A	B	C	A	B	C
1. お乳や食事すべて中止する	0	0	0	0	1 (4.6)	1 (6.7)	0	0	0
2. 普段よりへらす	1(14.2)	4(16.8)	5(33.3)	3(42.9)	8(33.7)	9(59.9)	0	0	2(13.2)
3. 食欲も機嫌もよければいつも通り与える	6(85.8)	19(79.3)	10(66.7)	4(57.1)	13(54.2)	5(33.4)	7(10.0)	22(91.6)	13(86.8)
4. 不明	0	1	0		2	0	0	2	0
計	7	24	15	7	24	15	7	24	15

第10表 乳児が次の状態になった時あなたはどうしますか

10-①



(第10表)、はなみず、咳、下痢は様子で医者につれていくが過半数で、ベットから落ちた、やけどはすぐ医者につれていくが、様子で医者につれていくがほとんどである。又虫にさされ、小さい傷は家で薬をつけておくと、64%、77.4%と多くを占めている。(表10-①)

又第1子、第2~3子との関係になると、上記と傾向は同じであるが、はなみず、くさめ、咳等において、第2~3子においては「薬を使う」が多くみられ、第1子においては「放っておく」が多いという傾向がみられた。(表10-②)

#### IV 考案並びに結論

冬季に於て、乳児の日常の世話の仕方の実態を知るために、愛育病院で生れ、以後保健指導部に来部している乳児(6~9か月児)158例について昭和45年1月から3月の間にアンケート用紙を用いて調査した。

1) 生れてから6か月までの環境では、

主な保育者はそのほとんどが母親であり、日当り良の者70.4%、庭の有る者53.7%、静かな環境と答えた者75.5%、又近くに公園等のものがある者77.9%と大体の乳児において恵まれた環境にあると考えられよう。

2) 体について、全く健康の者24%、又病気のある者

もその症状に対してほとんどがあまり気にしていない様である。

病気の訴えの多かったものは、しっしん、いびつ、かぜひき、下痢、便秘等で日常母親が一番身近に経験するものばかりである。

2) 育て方について

①家庭内の話し合いは、主人の間とも、他人の間ともうまくいっており特に問題のある家庭はみられなかった。

②母親の性格については、自分で神経質と言っている



松 島他：乳児期における過保護の実態調査（第1報）

第9表 機嫌のよい乳児が次の状態の時、食事はどうしますか

9-①

		下痢	嘔吐			食欲不振
1	お乳や食事すべて中止する	1 (6.2)	9 (5.7)	1	無理にのませる	1 (0.1)
2	普段よりへらす	48(30.0)	58(36.7)	2	時間を短くして少しでも多く与える	8 (5.7)
3	食欲も機嫌もよければいつも通り与える	104(66.0)	86(54.5)	3	ほしただけにしておく	145(91.7)
4	不明	5 (3.8)	5 (3.1)	4	不明	4 (2.5)
計		158	158	計		158

9-② ① 第1子、他別——上欄 ② 同居家族別——下欄

	下痢			嘔吐				食欲不振		
	第1子	第2~3子	計	第1子	第2~3子	計		第1子	第2~3子	計
お乳や食事すべて中止する	1 (1.2)	0	1 (0.2)	4 (4.3)	5 (7.4)	9 (5.7)	無理にのませる	0	1 (1.3)	1 (0.1)
普段より減らす	25 (27.5)	23 (34.9)	48 (30.0)	33 (36.7)	25 (36.8)	58 (36.7)	時間を短くして少しでも与える	6 (6.7)	2 (2.9)	8 (5.7)
いつも通り与える	63 (70.0)	41 (60.4)	104 (66.0)	51 (56.8)	35 (51.5)	86 (54.5)	ほしただけにしている	83 (92.3)	62 (91.4)	145 (91.7)
不明	1 (1.2)	4 (4.7)	5 (3.8)	2 (2.2)	3 (4.3)	5 (3.1)	不明	1 (1.0)	3 (4.4)	4 (2.5)
計	90	68	158	90	68	158	計	90	68	158

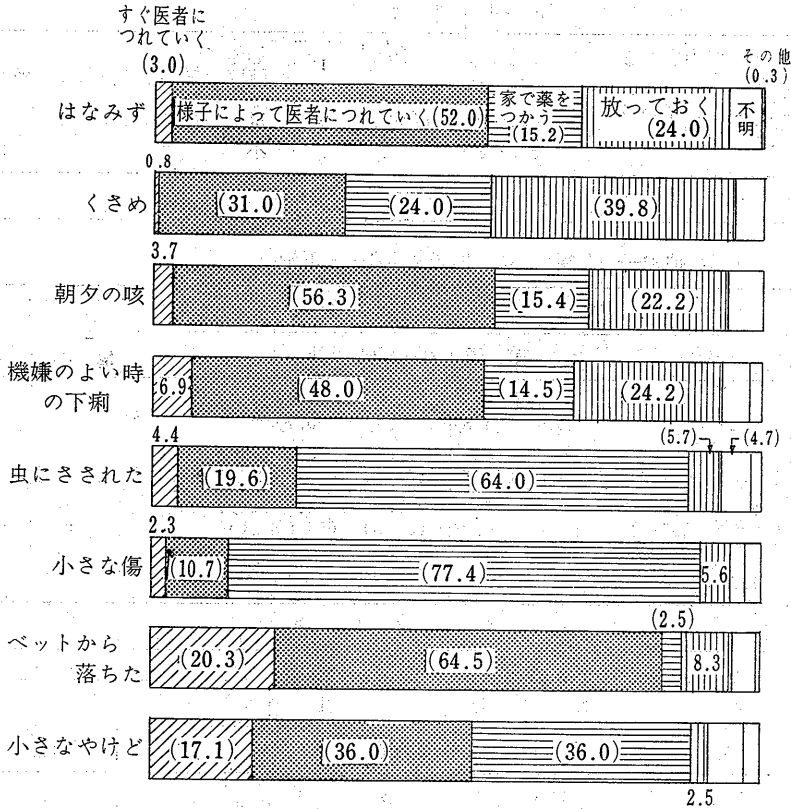
	下痢			嘔吐				食欲不振		
	両親同居	核家族	計	両親同居	核家族	計		両親同居	核家族	計
お乳や食事すべて中止する	1 (2.2)	0	1 (0.2)	3 (5.1)	6 (6.7)	9 (5.7)	無理にのませる	0	1 (1.3)	1 (0.1)
普段より減らす	21 (35.6)	27 (27.3)	48 (30.0)	16 (27.1)	42 (42.4)	58 (36.7)	時間を短くして少しでも与える	6 (6.7)	2 (2.9)	8 (5.7)
いつも通り与える	36 (59.2)	68 (68.2)	104 (66.0)	38 (64.5)	48 (48.6)	86 (54.5)	ほしただけにしておく	83 (92.3)	62 (91.4)	145 (91.7)
不明	1 (2.2)	4 (4.5)	5 (3.8)	2 (3.3)	3 (3.3)	5 (3.1)	不明	1 (1.0)	3 (4.4)	4 (2.5)
計	59	99	158	59	99	158	計	90	68	158

9-③ 母の性格別

	下痢			嘔吐			食欲不振		
	A 特 に神経 質	B 神経 質	C 他人 が神経 質とい う	A	B	C	A	B	C
1. お乳や食事すべて中止する	0	0	0	0	1 (4.6)	1 (6.7)	0	0	0
2. 普段よりへらす	1(14.2)	4(16.8)	5(33.3)	3(42.9)	8(33.7)	9(59.9)	0	0	2(13.2)
3. 食欲も機嫌もよければいつも通り与える	6(85.8)	19(79.3)	10(66.7)	4(57.1)	13(54.2)	5(33.4)	7(10.0)	22(91.6)	13(86.8)
4. 不明	0	1	0		2	0	0	2	0
計	7	24	15	7	24	15	7	24	15

第10表 乳児が次の状態になった時あなたはどのようにしますか

10-①



(第10表)、はなみず、咳、下痢は様子で医者につれていくが過半数で、ベッドから落ちた、やけどはすぐ医者につれていくか、様子で医者につれていくがほとんどである。又虫さされ、小さい傷は家で薬をつけておくと、64%、77.4%と多くを占めている。(表10-①)

又第1子、第2～3子との関係になると、上記と傾向は同じであるが、はなみず、くさめ、咳等において、第2～3子においては「薬を使う」が多くみられ、第1子においては「放っておく」が多いという傾向がみられた。(表10-②)

#### IV 考案並びに結論

冬季に於て、乳児の日常の世話の仕方の実態を知るために、愛育病院で生れ、以後保健指導部に来部している乳児(6～9か月児) 158例について昭和45年1月から3月の間にアンケート用紙を用いて調査した。

- 1) 生れてから6か月までの環境では、  
主な保育者はそのほとんどが母親であり、日当り良の者70.4%、庭の有る者53.7%、静かな環境と答えた者75.5%、又近くに公園等のものがある者77.9%と大体の乳児において恵まれた環境にあると考えられよう。
- 2) 体について、全く健康の者24%、又病気のある者

もその症状に対してほとんどがあまり気にしていない様である。

病気の訴えの多かったものは、しっしん、いびつ、かぜひき、下痢、便秘等で日常母親が一番身近に経験するものばかりである。

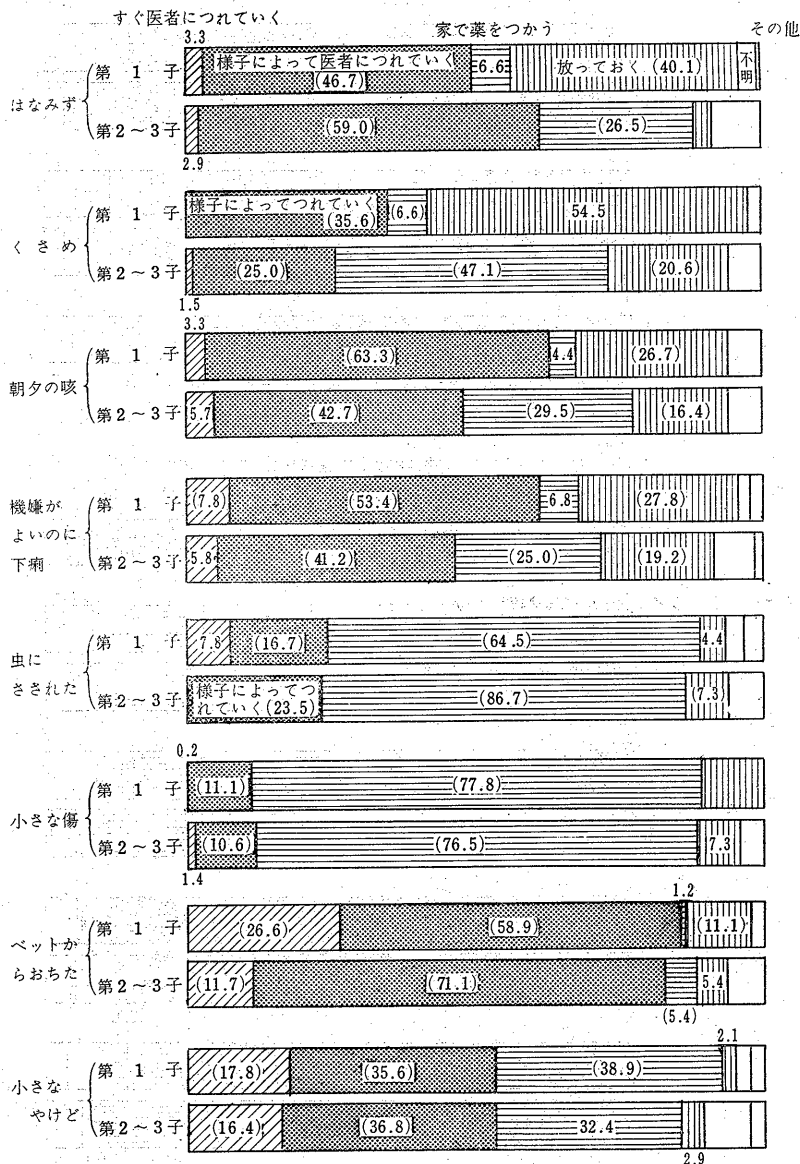
2) 育て方について

①家庭内の話し合いは、主人の間とも、他人の間ともうまくいっており特に問題のある家庭はみられなかった。

②母親の性格については、自分で神経質と言っている

松島他：乳児期における過保護の実態調査（第1報）

10-② ① 第1子、他別



母親が18%近くおり、他人からみて母親が神経質という場合が4分の1近くみられる。しかも、母親が特に神経質の場合は、日光浴等の励行も、他に比較して確実になされていることがわかった。

③外気浴、日光浴、入浴について、そのほとんどが行われているようであるが、日光浴に関しては、行わない者3.8%、2~3週に1回という者4.7%と実行されない例もみられた。

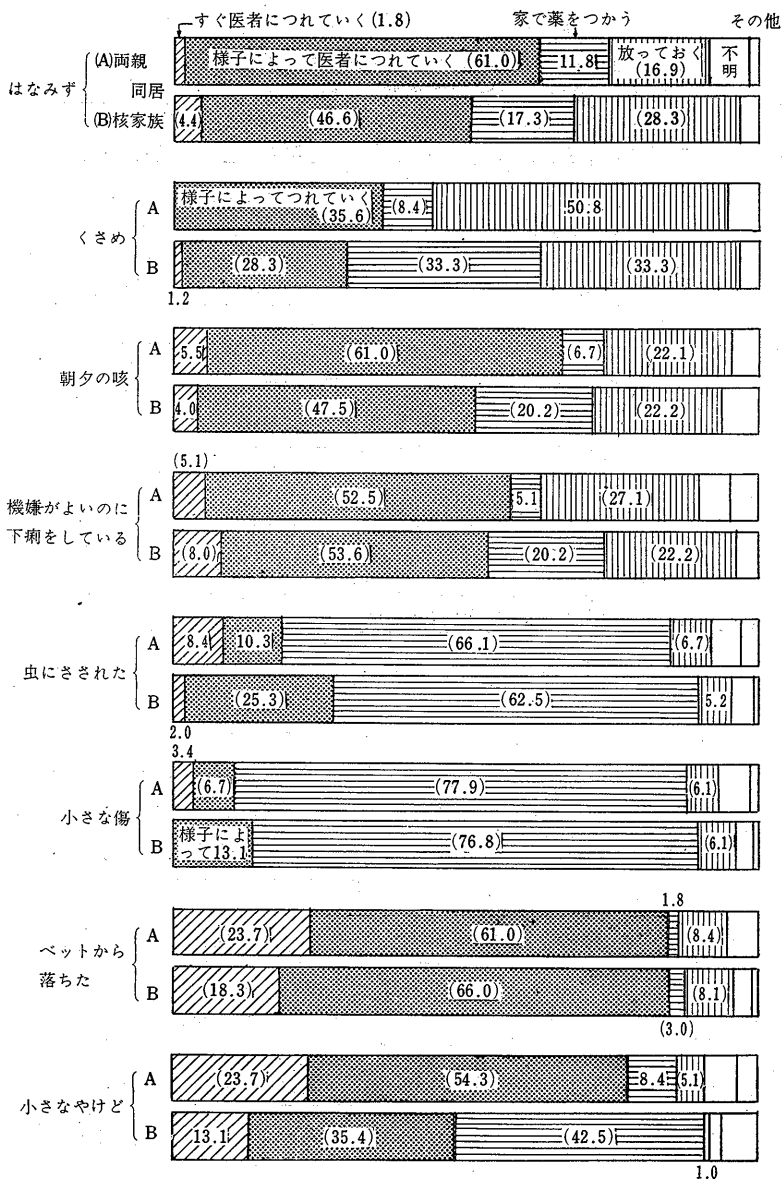
④くさめ、はなみず、咳をしている乳児に対する母親

の態度はそのほとんどがいつもと同じ様にやるか、時間を短くして実行しているが、日光浴の場合は中止の例も多くみられるようであった。

⑤機嫌のよい乳児の下痢、嘔吐、食欲不振の場合、多くの者が、いつもの通りに与えるか、ほしただけにしておくという解答で、指導が母親に徹底した例と見えよう。

⑥乳児がはなみず、くしゃみ、傷、ベッドから落ちた虫さされ、火傷の時にとる態度としては、はなみず、咳

10-② 同居家族別



下痢等母親として判断のつきにくいものは様子で医者につれていき、火傷、落ちた等という場合はすぐ医者へ行っているようである。傷、虫さされは家で薬を使っているが大半を占めている。

以上の結果から、対象乳児は冬季においてもその大半は、日常の世話が比較的スムーズによく行われているが、これは定期的に指導を受けている乳児が対象となったためと思われる。

次年度は、対照をもうけて同様の調査を行う予定である。

松島他：乳児期における過保護の実態調査（第1報）

10-① 母の性格別

	はなみず			くさめ			咳		
	A 特に神経 質	B 神経質	C 他人 が神経 質という	A	B	C	A	B	C
1. すぐ医者へつれていく	0	0	0	0	0	0	0	2 (8.3)	0
2. 様子によって医者にみせる	3 (42.9)	13 (54.2)	8 (33.4)	3 (42.9)	8 (33.6)	4 (26.7)	5 (71.6)	12 (50.0)	10 (66.7)
3. 家で薬をつかう	1 (14.2)	1 (4.6)	1 (7.7)	0	1 (4.5)	1 (7.7)	1 (14.2)	0	1 (1.7)
4. 放っておく	3 (42.9)	8 (33.5)	5 (33.0)	4 (57.1)	14 (58.5)	8 (53.4)	1 (14.2)	7 (29.2)	3 (20.0)
5. 不明	0	2	1	0	1	2	0	3	1
計	7	24	15	7	24	15	7	24	15

	下痢			虫さされ			傷			ベビーベッド から落ちた			やけど		
	A	B	C	A	B	C	A	B	C	A	B	C	A	B	C
1	0	1 (4.6)	0	0	1 (4.6)	0	0	0	0	1 (14.2)	8 (33.5)	4 (26.7)	1 (14.2)	5 (28.4)	3 (20.0)
2	3 (42.9)	16 (66.7)	10 (66.7)	1 (14.2)	3 (12.3)	2 (13.4)	0	1 (4.6)	2 (13.4)	15 (71.6)	13 (54.2)	9 (37.5)	2 (28.5)	8 (33.5)	3 (20.0)
3	2 (28.5)	0	0	6 (85.8)	17 (70.9)	12 (80.0)	100.0	7 (87.5)	12 (80.0)	0	0	0	4 (57.3)	8 (33.5)	8 (53.2)
4	2 (28.6)	6 (25.0)	4 (26.7)	0	1 (4.6)	0	0	0	0	1 (14.2)	1 (4.6)	1 (7.7)	0	1 (4.6)	0
5	0	1	1	0	2	1	0	2	1	0	2	1		2	1
計	7	24	15	7	24	15	7	24	15	7	24	15	7	24	15

## Investigation into Actual Status of Overprotection in Infancy (Report 1)

Dept. 3 Tominosuke Matsushima  
Junko Narusawa

In order to know the actual status on how the infants are daily taken care of in winter, we investigated the status of 158 infants (of 6~9 months old) who were born in Aiiiku Hospital and then regularly brought to Health Guidance Dept. of the same hospital, during the period from January to March, 1970, employing the questionnaire method.

It was found:

- 1) The life-environment of many of the infants during 6 months after their birth was good.
- 2) Most infants were taking open air, sun-bath and a hot bath even in winter.
- 3) In case of such conditions as sneezing, snivel or slight cough in the morning and evening, the greater part of the infants were treated in the same way as usual, or the time of taking open air, sun-bath or a hot bath was shortened.
- 4) We also investigated how mothers treated their infants in case the infants had simple loose stools, poor appetite or slight injury.

The results of our investigation show that the daily infants' care was almost smoothly taken even in winter. It is considered that this was because the subjects of the investigation were the infants whose mothers regularly received health guidance.

The same investigation having the control group is planned for the next year.